

この 3 年間の「家庭教育力アップ共通実践事項」の取組を振り返って

校長 谷口源太郎

早いもので令和5年度も残り 50 日不足となりました。これまで 3 年間取り組んできた「家庭教育力アップ共通実践事項」の取組について振り返っています。この取組を導入した時期は令和 3 年 7 月の学級 PTA でした。当時はコロナ禍で、各種行事も中止せざる負えない状況もありましたが、この取組の趣旨を説明する動画を教頭先生と一緒に作成して、テレビ放送で保護者の方に説明したのを懐かしく思い出しました。取組当初は学校が主導しての取組でしたが、これまでの PTA 専門部が取り組んできた取組と連動しながら、PTA 執行部や各専門部の役員さんの負担にならないように配慮しながら取り組んできました。お陰様で令和 5 年 12 月には、この取組を谷山 B・松元ブロックの家庭教育充実研修会で実践発表することができました。

ところで、私の中学生時代の話を紹介します。私の兄弟は 3 兄弟で家庭では、毎日がノーテレビデーを行っていました。両親共働きで、田舎の小さな食料品で朝から晩まで働いていて、全く子育てまで手が回らない、目が届かない状況。隣には祖父母が住んでいたのも祖父母が私たち兄弟の面倒を見てくれていました。親は私たち兄弟が横道にそれないようにと、ピアノ、剣道、習字、学習塾と遊ぶ日がないくらい習い事が詰まっており、通っていました。そのような状況で、父親があるとき、「テレビの線を切る」と突然言い出しました。理由は、親子での語りがない、食事をするときもテレビを見ている。これはいけないと思い立ちテレビの線を切ることにしたのです。取り組み始めたころはとても苦しい。それが 1 か月、2 か月と経つうちに普通になる。これまでテレビを見ていた時間は、読書や新聞を読む時間に変わり、親子で語る時間、机に向かう時間に変わりました。すると、勉強が分かるようになり、勉強の面白さが分かるようになる。すると成績もぐんぐん上がりました。何よりも中学生の反抗期に父や母とも食後に進路について語る時間が持てるようになりました。私が中 2、弟が小 6、下の弟が小 4 から始まった取組ですが、現在は 3 人とも教員（管理職：校長 2、教頭 1）となって働いています。父は 20 年前に他界していませんが、その当時の父親の判断には今でも感謝しています。

話を元に戻します。後期の学校評価と同時にこの取組状況についてアンケートを取りました。その結果を集約しましたのでお知らせいたします。

【アンケート調査のまとめ】

今回、5 つの家庭教育力アップ共通実践事項のうち「ノーメディアタイム」以外のすべての項目において前回（R5 年度前期）よりも、1 ととてもよい、2 よいを合わせた数値が下降していました。前期は 4 月の学級 PTA でも取組の説明をして呼びかけを行いました。多くの保護者がこの取組の趣旨・目的に賛同していただき、取組が高まりを見せました。

今回は大半の項目で若干後退していました。この取組が各家庭で更に充実していけば、子どもの姿になって表れてくると見込んでいます。この 3 年間に渡って取り組んできたこの取組が、実際に知育面でも徳育面でも健康・体力面でも改善の傾向が見られてきています。

今後、各家庭でいかに継続可能な取組にしていくかが課題と言えます。

今後の取組の方向性については、**学校主体から家庭主体の取組に移行させていくべきだ**と考えています。家庭教育として、何に、どのように取り組むべきかということは、ほとんどの保護者の皆さんに理解されていると思います。各家庭で保護者が親子で十分に語りあって、ルールやきまりや約束事を決めて取り組んでいくことが大切だと思います。